

● 英語コースの開設・充実

国際教育インスティテュート

2011年(H23)開設の「国際教育インスティテュート」は、留学生を対象とする「国際教養コース」と、日本人学生を対象とする「国際専修コース」から構成される文学部・社会学部・法学部・経済学部・商学部・政策学部の6文系学部横断型の新しい教育組織である。「国際教養コース」は英語で教授される科目のみで学位取得が可能で、「日本の社会・文化クラスター」「日本の経済・ビジネスクラスター」「日本の法・政策と国際協力クラスター」の3クラスターから成る。社会・文化・経済・ビジネス・法律・政治・政策・国際協力の分野にわたって、地元京都の地の利や日本で学習する経験を活かすことで幅広い学際的教養を育み、国際社会に貢献できるコミュニケーション能力を培うことを目的とする。



大学院

英語による履修のみで修了可能な研究科としては、2009年(H21)にビジネス研究科グローバルMBAコースを開設、2010年(H22)にはグローバル・スタディーズ研究科に「アメリカ研究クラスター」「グローバル社会研究クラスター」、工学研究科と生命医科学研究科に「国際科学技術コース」を開設、多くの外国人留学生が学んでいる。



● 優秀な留学生の確保

海外優秀高等学校との連携開始

海外の優秀な高校生獲得を目的に、2009年度(H21)より、積極的に海外の有力高等学校と指定校推薦入学制度に係る協定締結を進めており、2011年(H23)7月現在、5ヵ国(韓国、中国(含:台湾)、ベトナム、フィリピン、オーストラリア)33校と協定を締結。指定校となる高等学校については教育理念や教育水準を精査し、推薦された高校生には現地での面接などを行うことで学力・人物ともに秀でた学生の継続的かつ効率的な獲得を見込むとともに、入学後の授業料・宿舍等における優遇措置、教育・生活支援制度も整備した。

入学試験制度・実施体制の拡充整備

増加する海外からの出願者の利便性を考慮するとともに、積極的な留学生獲得のために、従来の入学試験制度を抜本的に見直した。入学試験の複数実施に加え、相当数の出願が見込まれる国においてはWeb出願導入の検討を行い、スカイプ等の通信手段を利用した面接や現地入学試験なども段階的に実施した。また、学力判定に学外の語学能力試験等を利用し、海外居住の出願者に渡日前入学許可を与える入学試験制度も整備した。

● 海外大学との国際交流・教育連携等の拡大

大学間学術交流協定等の促進

優秀な留学生の受入および日本人学生の海外派遣のため、教員が積極的に海外大学に赴き、交流協定校を開拓。交流協定数は年々増加し、2009年(H21)4月28ヵ国87大学であった大学間協定は、2011年(H23)7月現在で35ヵ国150大学。学部・研究科間協定は2009年(H21)4月19ヵ国43機関が2011年(H23)7月現在は25ヵ国76機関となっている。

外国で学ぶ学生数の拡大(留学制度の充実)

学部・大学院生の積極的な海外への派遣を促進・支援する制度改革にも取り組み、2013年(H25)に750名、2020年(H32)に1055名の派遣を目指す。様々な形態での派遣として、既存の短期・中期語学留学プログラムも新たに複数開発し、2009年(H21)224名だった海外への派遣学生数も2010年度(H22)394名と増加した。

ダブル・ディグリープログラムの開始

組織的海外派遣と学修体制の確保のため、海外有力校とのダブル・ディグリー等の共同プログラムも開発する。既存のエコールセントラルグループとのダブル・ディグリープログラムに加え、2009年(H21)、工学研究科および生命医科学研究科でミラノ工科大学(イタリア)、ESPCI(フランス)とのプログラムを新たに開始。2010年度(H22)は、西安電子科技大学(中国)とのプログラムを開始し、学生は既に9月開設の国際科学技術コース(ISTC)でも研究を行っている。

スタディーアブロードプログラム(SAP)および拠点の新規受入

2006年(H18)より、全世界の留学生を対象としてSAP「日本語・日本文化研修(サマー・セッション)」を提供している。



2009年(H21)からは、日本研究を志す海外大学の学生を対象に、京都の歴史的・文化的な資産も活かしつつ、日本語や日本文化等を学ぶ1年間や半期のプログラムも提供。その他、個別大学ニーズに合わせた短期SAP等も複数受け入れ、2010年度(H22)は19プログラムを数えた。同時に、本学キャンパスには海外一流大学が日本語・日本教育研究拠点として開設した5つのセンター「AKP同志社留学センター(AKP*1)」「チュービンゲン大学同志社日本語センター(TUB)」「スタンフォード技術革新センター(SCTI)」「京都アメリカ大学コンソーシアム(KCJS*2)」「シェフィールド大学同志社センター(USDC)」が揃う。

*1アメリカに本部を置くAssociated Kyoto Programに加盟のアーモスト大学、スミス大学等の名門リベラルアーツ・カレッジ16校からの学生を受け入れる1972年以降のプログラム運営機関。

*2京都アメリカ大学コンソーシアム:コロンビア大学グローバルプログラムオフィスが調整するアメリカ14大学連盟の留学プログラム。コロンビア大学の他、ボストン大学、シカゴ大学、コーネル大学、エモリー大学、ハーバード大学、ペンシルヴァニア大学、プリンストン大学、スタンフォード大学、ワシントン大学、イエール大学、ミシガン大学、ヴァージニア大学が参加。

● 留学生受入れ体制の充実

アドバイザー、チューターによる支援

2009年(H21)8月、修業および修学上の助言・相談等を行う「生活支援アドバイザー制度」、大学院生に日本語文章指導・添削等を1対1で行う「留学生学習・研究支援チューター制度」を導入。「生活支援アドバイザー制度」は、留学生の修学および生活に関する相談を受け、留学生が抱える不安や問題の解消を目的とする。学部および大学院の正規学生がアドバイザーとなり、修学等に関する助言の他、来日直後の留学生の生活支援も行う。本制度は、より留学生のニーズに沿うように随時見直し・検討を行っている。「留学生学習・研究支援チューター制度」は、チューターの配置により本学在籍留学生の学習・研究成果の向上を図り、留学生支援の一環とすることを目的とする。大学院の正規学生がチューターとなり、日本語力の向上支援(専門用語の習得、レポート論文の作成を含む)、専門分野についての支援をし、指導教員の指導のもと必要に応じて留学生の学習・研究上に関わる支援を行う。

宿舎の確保および環境整備

増加する留学生の生活支援のために、大学所管宿舎の確保を進めている。宿舎選定に際してはキャンパスから近い立地の他に、共同ラウンジの配備、レジデンス・アシスタントの配備等、日本人学生との交流がしやすいことも重視し、留学生の生活支援に日本人学生や上級生留学生が積極的に参加できる仕組の構築を目指している。また、民間住宅入居希望者には本学独自の住宅総合補償制度を整備した。

奨学金制度の見直し・充実

外国人留学生入学試験の受験者数の増加および優秀な私費外国人留学生の本学への入学を促進するため、2011年度(H23)より、本学が独自に行っている従来の特別奨学金制度、授業料減免制度、学習奨励金制度を一本化し、新たな外国人留学生向け渡日前奨学金制度を発定する。この制度導入により、全外国人留学生に対して必ず20~100%の授業料減免が適用されることとなる。

キャリアセンターと連携した日本企業への就職支援

留学生向けの就職支援パンフレットを作成し、日本企業での就職の準備から活動、インターンシップ等も含めた情報を入学時から案内。キャリアセンターでは、留学生支援のために高度な語学運用能力、専門性を持ったコーディネーターをフルタイム雇用し、個別の相談にも対応を行う等、入学から就職までのトータルサポートを目指している。

● 海外教育研究拠点の整備

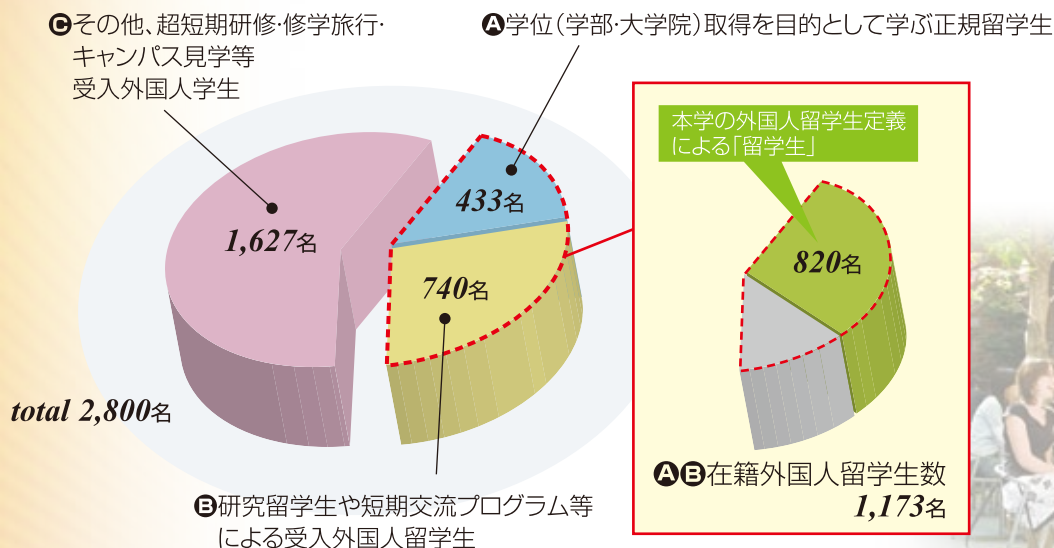
海外事務所の設置・展開

多くの国際化推進の取組の迅速・効果的展開のため、海外の複数地域に教育研究拠点設置を目指す。既存4カ所の海外事務所(マレーシア、アメリカ、イギリス(ケンブリッジ)、台湾)に加え、2009年度(H21)にはイギリス(ロンドン)、ベトナム(ハノイ)に海外事務所を設置、専従のスタッフを雇用し、本学および「日本」の情報発信を開始した。2010年度(H22)には、留学生獲得も視野に入れ、新たに中国(北京・上海)、韓国(ソウル)に、2011年度(H23)にはトルコ(イスタンブール)の3カ国4カ所に海外事務所を開設している(年度内予定を含む)。

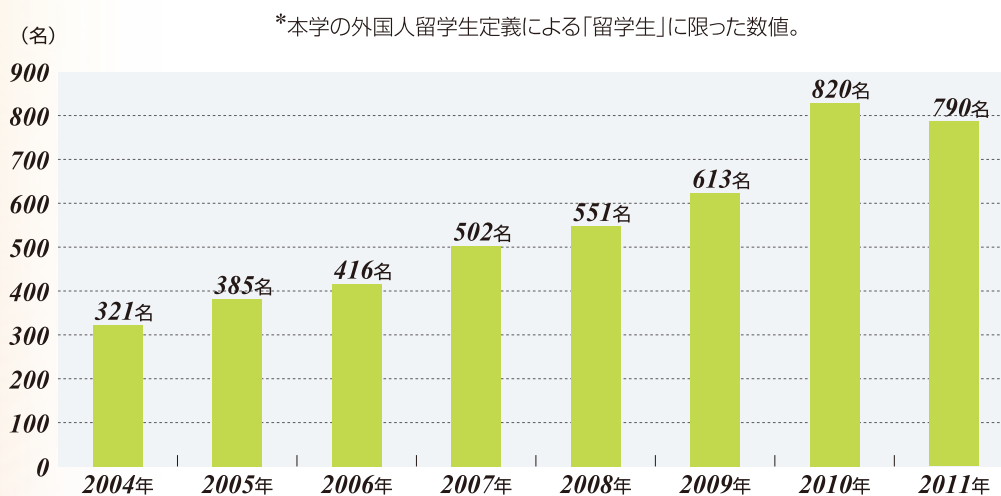


● 本学に関わる外国人学生数 (2010年度)

本学では、大学のみならず「京都・日本」の国際化に向けて、正規留学プログラム以外の海外からの訪問も積極的に受け入れている。数十名～数百名規模の海外高等学校修学旅行・研修旅行、海外大学等教育機関からの超短期研修プログラム、キャンパス見学等の様々な形態での訪問ニーズに対し、多言語での模擬授業提供や大学説明会、本学留学生や日本人学生との交流会、宿舎手配支援等、可能な範囲での対応を行い、本学に関わる外国人学生数を増やすことで、世界における本学のプレゼンス向上を図る。



● 在籍外国人留学生数の推移 (毎年5月1日現在*)



構想責任者



田端 信廣
[副学長]

同志社大学は「良心教育」を建学の精神とし、「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」を教育の基本理念に掲げ、135年の途を歩んできました。創立者新島襄の精神に則り、進取の気風に溢れ、「良心」に従って行動する国際人の輩出することを目的とした本学の国際主義教育は、この度国際化拠点大学に選ばれたことを契機に、大きな飛躍の局面を迎えています。

大学院、学士課程での新たな「英語コース」の設置、異なった修学目的をもった多様な留学生の受入の拡大、学生交換協定を含む海外協定校の増大などの活動は着実に前進し、大きな成果を収めつつあります。多様なプログラムを利用した派遣留学生の数も着実に伸びています。

私たちの国際化拠点整備の構想の目指すところは、こうした留学生数や協定校数の拡大にとどまらず、それを通して本学の教育全体および研究のあり方において国際的スタンダードを実現し、本学を「世界の同志社大学」へと発展させることにあります。この目標の実現に向けて、私たちは全学をあげて取組を継続、強化していく所存です。

